

## 犬飼農村舞台

### ふすまカラクリ研修会

参加者

阿波農村舞台の会 二十一名  
犬飼農村舞台保存会 八名

集合時間に五王神社の境内へ上がっていくと、すでに犬飼農村舞台保存会の方たちが、ふすま絵を虫干しするため、境内のあちこちに立てかけてあった。紗綾形、竹に鶏、花菱、紋、絵本、二見浦など様々な絵柄のふすまが静かな境内に無造作に並ぶ様子は、何とも言えない不思議な光景であった。

平成15年8月25日(月)  
12:30~15:30

平日にも関わらず予想以上の会員の参加があった。大和会長のあいさつ、犬飼農村舞台保存会の芝原副会長のあいさつの後、保存会の方たちといっしょに虫干ししたふすまを片づけ、舞台の雨戸を開け、椅子を並べた。トタンで覆われているとはいえ、茅葺きの屋根のふところは深く、天井からつり下げられた何本もの竹竿や、奥千畳までの幾重もの敷居、舟底の楽屋など、舞台の内部は先人の工夫が詰まっている。

「紗綾形」と「竹に鶏」が表裏に描かれた九枚一組のふすまを、舞台上部の木製の滑車からつり下げられた竹竿に結びつけ、田楽返しの研修が始まった。ふすま中央に結びつけられた竹竿を手前に引き、横へスライドさせるように動かすことで、



いとも簡単に九枚のふすまが反転し、「紗綾形」から「竹に鶏」へ瞬時に変わる。シンプルだが見事としか言いようのないカラクリに感嘆の声が上がった。「竹に鶏」は、滑車を使って上へ引き上げられる。昔はひもを持って上から飛び降りていたそうである。

約一五〇枚のふすま絵が残されている神山町の小野さくら野舞台復活実行委員会の方たちは、特に熱心に操作方法等を伝授してもらっていた。ぜひとも神山町でも、ふすまカラクリを復活させてほしいものである。

研修の締めくくりには、奥千畳まで要所要所のふすま絵をセットし、犬飼農村舞台保存会の方たちによる通しのふすまカラクリを見せていただいた。裏方も見せていただき、毎年十一月三日の公演とは、また違った趣の犬飼農村舞台を堪能した一日であった。

お盆までの冷夏とうってかわって蒸し暑い中、ふすまカラクリの操作方法を教えてくださいくださった犬飼農村舞台保存会のみなさま、本当にありがとうございます。

